

赤松小三郎先生略歴

天保2年(1831年)4月4日

上田藩士・芦田勘兵衛の次男として生まれる。初名・清次郎。

藩校の明倫堂(現在の上田市立第二中学校に位置)に学び、

和算家・竹内善吾の高弟・植村重遠(上田藩士)に師事する。

また、龍洞院住職・活文禅師の私塾「多聞庵」に学ぶ。(同門に佐久間象山など)

嘉永元年(1848年)

江戸に遊学。(18歳)

関流和算の大家・内田五観(弥太郎。号は宇宙堂)の瑪得瑪第加(マテマチカ)塾に入門。和算・天文・測量・歴史・地理・蘭学を学ぶ。

(内田五観は高野長英の弟子で、数学用語「微分」「積分」の名付け親とされている)

後に西洋兵学家・下曾根信敦(金三郎)について蘭学・砲術を学ぶ。

天保七年(1836年)or 安政元年(1854)

上田藩士・赤松弘の養子となる。(22～23歳)

安政2年(1855年):勝海舟に随行して長崎海軍伝習所に行き、オランダ人より蘭学・英学・兵学・航海術、測量等を学ぶ。

横浜在住のイギリス騎兵士官より騎兵術、英語を学ぶ。

慶応元年(1865)7月:「英国式歩兵操典 Field Exercises & Evolutions of Infantry(1862年版)」の翻訳書「英国歩兵練法」を出版する。一説に「気ヲツケ」「左ムケー左」「カケ足ススメ」などの号令は、赤松が翻訳した用語から広まったとも云う。

※「右へ、準エ」や「右向ケ、右」などは、1858年の文献には既に用いられており、赤松が「初めて」翻訳したものではない。

慶応2年(1866)2月:京都に居を移し、私塾「宇宙堂」を開き、英国式兵学を教える。門下生には、篠原国幹、東郷平八郎、野津道貫、上村彦之丞、中村半次郎など、薩摩・肥後・会津・越前・大垣などの各藩士から新選組の隊士までを含む。

同年8月:「方今世上形勢の儀に付乍恐奉申上候口上書」を幕府に提出

慶応3年(1867年):薩摩藩の依頼により「英国歩兵練法」を改訂

同年5月:越前福井藩主・松平春嶽に対して「[御改正之一二端奉申上候口上書](#)」を提出する。

同年9月2日:上田藩から再三にわたって帰国命令を受けて、帰藩を決意。

薩摩藩の門下生の有志が集まって、送別会が開かれる。

同年9月3日:京都・東洞院通にて白昼、桐野利秋(人斬り半次郎)・田代五郎右衛門ら薩摩藩士に暗殺された。

享年37。

赤松小三郎 先生を偲ぶおみやげ



建白七策おやき

赤松小三郎先生の「御改正之一二端奉申上候口上書」(七策)にちなんだ手作りおやきです。1パック七つの違う味のおやきが入って800円で販売されています。うれしいのは種類を自分で選ぶことができます。赤松小三郎先生生誕の地であじわうおやきは格別です

そば粉はまろやかさを、米粉はもちり感をあとは小麦粉。梅酒は防腐剤として使用されています

倉田菓子補

和田龍吟醸生貯蔵酒 赤松小三郎ラベル

300ml 472円

軽快でフルーティ、するすると喉をとる爽やかで飲みやすいお酒です。よくひやしてお召し上がりください

和田龍株式会社



赤松小三郎風呂敷: 1000円

顕彰会伊藤先生よりご依頼のあった赤松小三郎先生をイメージしたキャラクターです。デザインは角田さんも木町生まれのデザイナーさんです。赤松君という名前です。銭澤時計店では先生に親しんでもらうためグッズを作成しました。みなさんよろしく願い致します

銭澤時計店



赤松小三郎フレスレット智の輪
3500円



赤松小三郎天然石ストラップ
智の珠
980円